

令和4年度第1回 碧南市地域自立支援協議会 次 第

日時 令和4年6月29日（水）

午後1時30分から午後3時まで

場所 へきなん福祉センターあいくる
デイルーム

1 あいさつ

2 議題

(1) 障害福祉サービス等の提供実績について

(2) 基幹相談支援センターの実績について

(3) 碧南市地域自立支援協議会各作業部会の実績報告及び今年度の取組について

3 その他

【令和4年度の日程】

・第2回：令和4年10月12日（水）午後1時30分から

へきなん福祉センターあいくる 2階 デイルーム

・第3回：令和5年3月8日（水）午後1時30分から

へきなん福祉センターあいくる 2階 デイルーム

○碧南市地域自立支援協議会設置規程

平成19年7月2日

公告第131号

改正 平成21年2月17日公告第21号

平成23年12月26日公告第269号

平成25年4月1日公告第34号

(設置)

第1条 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号）第89条の3の規定に基づいて、障害者等への支援の体制の整備を図るため、碧南市地域自立支援協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 協議会は、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 福祉サービス利用に係る相談支援事業の中立性及び公平性の確保に関すること。
- (2) 困難事例への対応のあり方に関すること。
- (3) 地域の関係機関によるネットワーク構築等に関すること。
- (4) 障害者の就労支援に関すること。
- (5) その他障害者施策の策定及び推進に関すること。

(組織)

第3条 協議会は、委員25人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 識見を有する者
- (2) 各種団体の代表者
- (3) 関係行政機関の職員

3 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(会長)

第4条 協議会に会長を置く。

2 会長は、市長が任命する。

3 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

4 会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会は、会長が招集する。

2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(作業部会)

第6条 協議会に困難事例、就労支援等について具体的な検討を行うため、作業部会を置く。

2 作業部会は、協議会の委員及び委員の属する団体の担当者をもって構成する。

3 作業部会は、必要に応じて、会長が招集する。

(庶務)

第7条 協議会の庶務は、福祉こども部福祉課において処理する。

附 則

この規程は、平成19年7月2日から施行する。

附 則（平成21年2月17日公告第21号）

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成23年12月26日公告第269号）

この規程は、平成23年12月26日から施行し、同年10月1日から適用する。ただし、第3条、第6条、第8条及び第10条の規定は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成25年4月1日公告第34号抄）

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

議題（１） 障害福祉サービス等の提供実績について

障害福祉サービス、障害児通所支援事業及び地域生活支援事業については、令和３年３月に第３期障害者計画・第６期障害福祉計画・第２期障害児福祉計画で現状と課題を確認し、必要な見込量やそのための具体的方策を策定した。令和３年度の見込量及び実績は以下のとおり。見込量及び実績の分析をもとに、今後の課題及び方針について記載した。

１ 障害福祉サービス

（１）訪問系サービス

（単位：１月あたりの延べ利用者数、１月あたりの延べ時間）

サービス名	区分	令和２年度		令和３年度		令和４年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
居宅介護	人	92	103	92	101	93
	時間	2,392	2,560	2,477	2,651	2,503
重度訪問介護	人	1	0	1	0	1
	時間	388	0	425	0	425
同行援護	人	7	7	8	7	9
	時間	42	32	56	44	63
行動援護	人	2	0	1	0	1
	時間	12	0	7	0	7
重度障害者等 包括支援	人	1	0	1	0	1
	時間	388	0	425	0	425
訪問系サービス （合計）	人	103	110	103	108	105
	時間	3,222	2,592	3,390	2,695	3,423

ア 分析

居宅介護は実績が見込量を上回り、重度訪問介護、同行援護、行動援護及び重度障害者等包括支援は、実績が見込量を下回った。

イ 課題

同行援護や行動援護などを行う従事者の専門的な技術の習得が課題である。また、サービス提供中に従事者間での情報共有が可能な通所系サービスと異なり、サービス提供上の課題の把握や事業所ごとの課題解決に向けての従業員教育の機会が乏しいため、研修の実施が困難な状況である。

ウ 方針

対応が困難な発達障害や精神障害など、特別な知識や経験が必要となる方への支援や、同行援護や行動援護などに要する専門的な技術に関する研修の検討、実施及び事業所間での情報共有などの技術支援が可能となる体制の整備を図る。

また、障害福祉分野の多様な人材の確保及び就業者数の増加を図るために情報発信の方法や内容を検討する。

(2) 日中活動系サービス

(単位：1月あたりの延べ利用者数、1月あたりの延べ日数)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
生活介護	人	184	169	192	172	196
	日	3,680	3,306	3,782	3,280	3,861
自立訓練 (機能訓練)	人	1	0	1	0	1
	日	20	0	23	0	23
自立訓練 (生活訓練) ※	人	5	1	2	2	3
	日	235	53	78	76	117
就労移行支援	人	22	21	19	20	23
	日	396	356	371	361	449
就労継続支援 (A型)	人	63	44	53	49	57
	日	1,197	879	1,052	948	1,132
就労継続支援 (B型)	人	106	119	131	139	144
	日	1,696	2,078	2,072	2,417	2,278
就労定着支援	人	5	10	10	9	12
療養介護	人	10	11	12	11	13
	日	297	327	360	345	390
短期入所 (福祉型)	人	72	32	76	34	84
	日	144	139	233	171	257
短期入所 (医療型)	人	2	1	1	1	1
	日	4	7	7	7	7

※ 居住系サービスの宿泊型自立訓練を日中活動系サービスの自立訓練（生活訓練）の中に含めて計上

ア 分析

就労継続支援（B型）は実績が見込量を上回り、自立訓練（生活訓練）の利用者数、短期入所（医療型）の利用者数及び利用日数は同数となった。その他は、実績が見込量を下回り、なかでも短期入所（福祉型）は見込量を大幅に下回った。

イ 課題

就労移行支援は事業所が市内に1箇所であり、自立訓練については、近隣に事業所が少ないため、提供できる支援の幅が狭まっている。また、地域で生活するために、他のサービスを利用せざるを得ないケースも見られる。加えて、短期入所は、介護者の高齢化から自宅での対応が困難になった際の利用や将来の自立を見据えた新規利用のニーズが高まっている。しかし、近隣市も含め事業所に十分な空き定員がなく、提供体制の整備が進んでいない。

ウ 方針

特別支援学校等の卒業予定者数や卒業後の進路希望の把握に努め、地域で情報を共有し、卒業後の利用サービスの確保を支援するとともに、障害者の就労機会の創出や継続雇用の促進を図る。また、障害者のニーズを把握し、地域において

利用できる定員の拡充に向けた支援を推進する。

(3) 居住系サービス

(単位：1月あたりの延べ利用者数、1月あたりの延べ日数)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
自立生活援助	人	2	0	1	0	1
共同生活援助	人	46	46	51	52	56
	日	1,242	1,278	1,414	1,468	1,553
施設入所支援	人	34	35	33	33	32
	日	986	975	1,000	982	970

ア 分析

自立生活援助の延べ利用者数、施設入所支援の延べ日数が見込量を下回った。
一方、共同生活援助及び施設入所支援の延べ人数は、実績と見込量が同数または実績が見込量を上回った。

イ 課題

介護者の高齢化により自宅での障害者対応が困難になるケースが増加していることや、その後の“親亡き後”を見据えた支援が求められていることから、グループホーム等の需要が高まっている。しかし、事業所の不足や受け入れ可能な障害の特性が事業所毎に限られていることため、事業所との調整に時間を要するケースも見られ、提供体制の整備が進んでいない。

ウ 方針

障害者等のニーズや事業所が求める支援を把握し、地域で情報共有を進めるとともに、市と事業所間で連携して検討を進め、市内で利用可能な定員の拡充に向けた支援を推進する。

(4) 計画相談支援・地域相談支援

(単位：1月あたりの延べ利用者数)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
計画相談支援	人	72	64	70	68	80
地域移行支援	人	2	1	2	0	3
地域定着支援	人	2	0	1	0	1

ア 分析

すべて実績が見込量を下回った。

イ 課題

計画相談支援の利用者が増加している一方で、相談支援専門員の人数が確保

できていない。また、各機関において提供されるサービスの調整も相談支援事業所に求められている。需要に応える相談支援の提供体制の整備が求められている。

地域移行支援及び地域定着支援については、対象となり得る長期入院患者の定期的な状況の把握が病院外の関係機関においては困難であることなどから、サービスの提供実績がないことが課題となっている。

ウ 方針

障害福祉分野の人材を確保するため、相談支援専門員の仕事について幅広く情報を発信する。また、関係機関間の連携及び支援を強化することで相談支援専門員の負担軽減を図る。長期入院者の地域移行に関しては、医療機関と相談支援専門員との連携を図り、情報共有をすることで推進を図る。

2 障害児通所支援事業

(単位：1月あたりの延べ利用者数、1月あたりの延べ日数)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
児童発達支援	人	59	68	110	79	147
	日	295	406	660	453	882
医療型児童発達支援	人	1	0	1	0	1
	日	1	0	10	0	10
放課後等デイサービス	人	178	300	172	356	181
	日	1,424	1,315	1,515	1,408	1,591
保育所等訪問支援	人	60	86	88	104	97
	日	60	86	88	103	97
居宅訪問型児童発達支援	人	2	2	4	2	5
	日	10	9	20	11	25
障害児相談支援	人	19	30	40	32	49
医療的ケア児に対する関連分野支援を調整するコーディネーターの配置	人	1	2	2	2	2
子ども・子育て支援事業	人	264	284	295	251	295

(1) 分析

放課後等デイサービスの延べ利用者数、保育所等訪問支援の延べ利用者数及び延べ利用日数は実績が見込量を上回った。その他は、実績と見込量が同数、若しくは下回った。

(2) 課題

サービス提供事業所の増加に伴い、各事業所にて行われる支援内容が多様化するとともに、保護者の各サービスに求めるニーズも多様化してきている。そうした現

状により、サービスの調整を図る相談支援専門員の需要が高まっており、支援体制の整備が課題になっている。

(3) 方針

各事業所が提供するサービス内容を把握し、事業内容の適正さを確認するとともに各障害児の支援に適したサービス利用に適切かつ円滑につなげられるよう、各事業所や障害児相談支援事業所と情報共有する。また、保護者が子どもの特徴を早期に理解し、適切な関わり方を学ぶことで、将来の健全な生活につなげるため、巡回支援専門員の整備事業の中で行われている相談体制を推進する。

3 地域生活支援事業等

(1) 理解促進研修・啓発事業、自発的活動支援事業

(単位：実施か所数)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
理解促進研修・啓発事業	か所	1	2	2	2	2
自発的活動支援事業	か所	2	2	2	2	2

(2) 相談支援事業

(単位：実施か所数、実施有無)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
障害者相談支援事業	か所	1	1	1	1	1
基幹相談支援センター等機能強化事業	か所	1	1	1	1	1
基幹相談支援センター	か所	1	1	1	1	1
地域自立支援協議会	か所	1	1	1	1	1
住宅入居等支援事業	実施有無	無	無	無	無	無

(3) 成年後見制度利用支援事業、成年後見制度法人後見支援事業

(単位：実施か所数、1月あたりの利用者数)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
成年後見制度利用支援事業	人	5	1	3	1	4
成年後見制度法人後見支援事業	か所	1	1	1	1	1

(4) コミュニケーション支援事業

(単位：1年あたりの利用者数)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
手話通訳設置事業	人	8	11	11	5	12
手話通訳者派遣事業	人	1	4	8	6	11
要約筆記者派遣事業	人	1	0	1	0	1

(5) 日常生活用具給付等事業

(単位：1年あたりの件数)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
介護・訓練支援用具	件	5	7	12	8	14
自立生活支援用具	件	5	9	12	5	13
在宅療養等支援用具	件	11	9	12	13	14
情報・意思疎通支援用具	件	7	4	8	1	10
排泄管理支援用具	件	1,941	995	1,137	1,085	1,194
居宅生活動作補助用具 (住宅改修費)	件	2	5	3	1	3

(6) 手話奉仕員養成研修事業

(単位：実施か所数)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
手話奉仕員養成研修事業	か所	1	1	1	1	1

(7) 移動支援事業

(単位：1月あたりの利用者数、1月あたりの延べ時間)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
移動支援事業	人	94	94	103	96	104
	時間	755	821	859	887	867

(8) 地域活動支援センター

(単位：実施か所数、1年あたりの利用者数)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
地域活動支援センター	か所	1	1	1	1	1
	人	17	15	16	14	16

(9) 訪問入浴サービス事業

(単位：1月あたりの延べ利用者数、1月あたりの延べ日数)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
訪問入浴サービス事業	人	9	11	7	13	8
	日	54	41	49	38	56

(10) 生活訓練等事業

(単位：1年あたりの利用者数)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
生活訓練等事業	人	—	6	6	6	6

(11) 日中一時支援事業

(単位：1月あたりの延べ利用者数、1月あたりの延べ日数)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
日中一時支援事業	人	134	65	171	118	181
	日	268	132	352	197	372

(12) 巡回支援専門員整備事業

(単位：1年あたりの実施回数)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
巡回支援	回	—	91	100	34	100
支援者向け講習会	回	—	2	7	8	7
保護者向け講習会	回	—	4	8	13	8
発達相談	回	—	91	90	190	90

(13) レクリエーション等活動等支援事業

(単位：1年あたりの利用者数)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
レクリエーション等活動等支援事業	人	—	93	124	85	126

(14) 芸術文化活動振興事業

(単位：1年あたりの利用者数)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
芸術文化活動振興事業	人	—	76	73	41	73

(15) 声の広報発行事業

(単位：1年あたりの利用者数)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
声の広報発行事業	人	11	7	11	6	7

(16) 奉仕員養成研修事業

(単位：1年あたりの利用者数)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
奉仕員養成研修事業	人	—	9	8	9	8

(17) 複数市町村における意思疎通支援の共同実施促進事業

(単位：1年あたりの利用者数)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
複数市町村における意思疎通支援の共同実施促進事業	人	—	5	7	8	7

(18) 補装具費給付事業

(単位：件数)

サービス名	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度
		見込量	実績値	見込量	実績値	見込量
交付、借受及び修理	件	91	82	124	89	126

ア 分析

移動支援事業の延べ利用時間、訪問入浴サービス事業の利用者数などは、実績が見込量を上回った。一方、成年後見制度利用支援事業の利用者数、日中一時支援事業及び声の広報発行事業などは、実績が見込量を下回った。

イ 課題

成年後見制度利用支援事業については、高齢化に伴い必要性は高まっている一方で、利用実績は低調となっている。制度の周知は進んでいるが、申請手続きの煩雑さや保護者の「まだ大丈夫」といった考えから利用に至っていないことも想定される。

ウ 方針

成年後見制度利用支援事業の利用に至っていない障害者が適切に制度を利用できるよう、市広報やインターネットを活用した広報活動や、碧南市成年後見支援センターなどの関係機関との連携を推進していく。

議題（２）基幹相談支援センターの実績報告

1 総合的・専門的な相談支援の実施（令和３年４月分から令和４年３月分まで）

(1) 一般相談支援件数

１８歳未満４６件、１８歳以上９２６件、合計９７２件

(2) 総合的な相談支援や専門的な相談支援（困難ケース等）への対応

実人数５７人に対し、延べ１，８６０件の相談支援を行った。件数の具体的な内訳は次の通り（件数は全て延べ）。

ア 被虐待者への対応や継続的対応が必要な人への支援 ３６件

イ 家族力が低く多問題のある人への支援 ３９７件

ウ 強度行動障害のある人への支援 １５８件

エ 医療依存度が高い人への支援 ２５９件

オ 障害特性による課題が多い人への支援 １，０１０件

2 地域の相談支援体制の強化の取組

(1) 地域の相談支援事業者に対する専門的な助言、指導

計画相談支援を担当する事業所と支援方針の確認、社会資源の情報提供及び事業所との連絡調整などのサポートを実施。

(2) 地域の相談支援事業者の人材育成の支援

ア 相談支援従事者現任研修及び初任者研修受講者に対し、研修期間中の実習を受け入れ、個別事例への助言、地域課題や社会資源の共有及び情報確認などについてコンサルティングを実施。

イ 相談支援事業所情報交換会を開催し、社会福祉法人ＡＪＵ自立の家が愛知県より受託する自立生活体験事業の概要を確認し、事業を活用した障害当事者の実体験を聞きながら、地域での自立生活を実現するための勉強会を実施。

(3) 地域の相談機関との連携強化の取組

ア 市内小中学校へ児童通所支援事業を利用する児童・生徒の一覧を配布し、教育機関と相談支援の連携の充実を図った。

イ 個別事例に基づき、地域包括支援センター、生活困窮者自立相談支援事業、成年後見支援センター、ハローワーク等の機関と連携及び協働による対応を実施。

ウ ＩＣＦ情報把握・共有システムを使った個別支援会議を実施し、家庭、教育、福祉の各支援機関が共通のツールを活用した情報共有を行い、支援方法について検討した。

3 地域移行・地域定着の促進の取組

(1) 障害者支援施設や精神科病院等への地域移行に向けた普及啓発

精神科病院に長期入院をする方の地域移行に関するチラシの改定及び周知について再検討が必要だが、昨年度は具体的な検討ができなかった。

(2) 地域生活を支えるための体制整備に係るコーディネート

医療的ケア児者検討会にて外出時の支援体制整備に向けた検討を実施。

地域生活支援部会にて地域での生活に困難さを抱える方の事例検討を行い、地域課題の共有及び検討を実施。

4 権利擁護・虐待の防止

(1) 障害者虐待における通報又は届出の受理

碧南市障害者虐待防止センターの一部機能（相談届出受理、相談、助言及び指導、受け入れにおける支援、広報、周知等）を受託し、夜間及び休日における虐待防止センターの電話受付体制などの虐待防止に努めた。

(2) 障害者及び養護者に対する相談、指導及び助言

虐待対応に関して、毎月福祉課と情報共有及び進捗状況の確認を行い、支援方針の確認や虐待対応の終結に向けた調整を実施した。

(3) 障害者虐待防止のための関係機関とのネットワーク構築、広報及び啓発活動

市内の障害福祉サービス事業所及び児童通所支援事業所等を対象に、障害者虐待防止の手引きを配布し、事業所における体制整備チェックリスト及び職員セルフチェックリストを実施。令和3年度に新たに開設した2事業所及び虐待防止チェックリストを参考に1事業所を訪問し、虐待防止の普及啓発に努めた。

5 碧南市地域自立支援協議会作業部会の運営

事業所部会、就労支援部会、こども部会、障害者災害時支援部会及び地域生活支援部会の事務局として地域課題の整理及び各部会へ検討事項を提案。なお、各部会の詳細は、別紙のとおり。

議題（３）碧南市地域自立支援協議会各作業部会の実績報告及び今年度の取組について

1 事業所部会

(1) 構成メンバー

障害福祉サービス事業所、地域活動支援センター及び相談支援事業所

(2) 令和３年度目標及び結果

ア 目標

地域生活支援拠点の機能評価と実情に即した体制を整備。サービス利用者の災害時における安否確認等について、事業所の対応方針を策定。

イ 結果

(ア) ４月から７月まで毎月１回、災害時対応検討会を開催。事業所利用者の災害時の安否確認に関して、事業所が災害時における個人情報提供同意書の確認を行うと共に、利用者及び利用者家族へ避難所に関する確認を促す方針とした。

(イ) １０月１３日（水）に第１回、１月２１日（金）に第２回の部会を開催。

a 地域生活支援拠点における専門的人材の確保・養成に関連し、部会での研修のあり方について検討。部会のメンバーより研修担当を設け、事務局と研修の調整をする方針とした。また、アンケートフォームを活用した研修ニーズの把握を実施。

b 地域生活支援拠点における機能評価シートの集約結果を共有。特に評価が低い「体験の機会・場」について重点的に意見交換をした結果、対象者に合わせた具体的な検討の必要性を確認。その他、情報共有及び情報発信に関する事業所のＩＣＴの普及促進を図ること、意思決定支援を支援者と保護者に分けた普及啓発の必要性を確認。

(3) 令和４年度検討事項

ア 課題

地域生活支援拠点の継続的な機能評価のため、事例に基づく対応の検証が必要。

イ 目標

地域生活支援拠点の機能評価と実情に即した体制を整備。

ウ 取組内容

(ア) 地域生活支援拠点の継続的評価及び「体験の機会・場」の機能の充実にに関する検討を実施。

(イ) 人材育成のため事業所のニーズに応じた研修を実施。

(ウ) 事業所のＩＣＴ普及促進に関して、実態を踏まえた対応を検討。

2 就労支援部会

(1) 構成メンバー

障害当事者団体代表、ハローワーク、地域活動支援センター、特別支援学校、保護者、商工会議所、障害者就業・生活支援センター、障害福祉サービス事業所、相談支援事業所及び市（学校教育課及び商工課）

(2) 令和3年度目標及び結果

ア 目標

- (ア) 地元企業を中心に障害者雇用の理解促進
- (イ) 就労系事業所の専門性の向上や工賃向上などに活かせる取組の検討
- (ウ) 進路選択の参考となる機会を設ける
- (エ) 支援を必要とする就労希望者へ情報を届ける

イ 結果

10月12日(火)に部会を開催し、進路選択の参考となる機会についての検討、支援を必要とする就労希望者へ情報を届けることについて検討。

- (ア) コロナ禍での各事業所の状況や作業・就職活動支援などへの影響について情報共有。
- (イ) 進路選択の参考となる機会について意見交換。「早い段階で事業所情報などを得られると、その後の個別相談にも生かせる」「映像などを活用し整理された情報をいかに届けるか」などの意見を共有。
- (ウ) 支援の専門性について、高次脳機能障害の支援に関して専門機関の情報提供を行い、連携していくことの重要性を確認。

(3) 令和4年度検討事項

ア 課題

- (ア) 地元企業を中心に障害者雇用の理解促進を図る必要がある
- (イ) 就労系事業所の専門性の向上や工賃向上などを図る必要がある。
- (ウ) 学生から社会人となった後に、進路のミスマッチのような状態となることがある。
- (エ) 支援を必要とする就労希望者と支援者とのマッチングを図る機会が限られている。

イ 目標

- (ア) 地元企業を中心に障害者雇用の理解促進。
- (イ) 就労系事業所の専門性の向上や工賃向上などに活かせる取組の検討。
- (ウ) 進路選択の参考となる機会を設ける。

(エ) 支援を必要とする就労希望者へ情報を届ける。

ウ 取組内容

(ア) 就労支援部会を開催し、就職相談会の開催方法の検討や各事業所の紹介映像の活用などを検討。

(イ) 就労支援部会内で各就労系事業所の作業や施設外就労への取組、支援方法について情報共有。

3 こども部会

(1) 構成メンバー

保護者、ほっとまんまピアサポーター、特別支援学校、児童通所サービス事業所、子育て支援センター、訪問看護ステーション、保健所、相談支援事業所及び市（こども課、学校教育課及び健康課）

(2) 令和3年度目標及び結果

ア 目標

(ア) ライフステージをつなぐ一貫した支援、連携の充実

(イ) 医療的ケア児者等課題別の検討会を実施

(ウ) 保護者支援として、ほっとまんまによるピアサポートの実施や茶話会を開催

(エ) サポートブック普及啓発活動の継続

イ 結果

(ア) 課題に応じたメンバーにより、医療的ケア児者検討会、児童通所支援事業所検討会を開催。検討会以外の方には会議録等を送付し情報の共有を図った。

(イ) 7月19日（月）に医療的ケア児者検討会を開催。医療的ケア児者の外出（通院や通所等）の課題について検討。医療依存度の高い子を持つ保護者の外出時の負担軽減のため、信頼できるヘルパーが必要であること、喀痰吸引等ができるヘルパーの必要性を確認。喀痰吸引等ができるヘルパーが少ないことが課題とされたため、ヘルパー事業所へ喀痰吸引等研修の受講に関する意向や課題を確認。受講費用や受講中の職員配置が困難との回答が多かった。

(ウ) 2月15日（火）に児童通所支援事業所検討会を開催。事前アンケートの中から出てきた支援方法や環境面での課題、制度、市の取り組み等について意見交換。

(エ) 保護者支援

a 「ほっとまんま・カフェ」と「ほっとまんま相談コーナー（あおぞらひろば）」を月一回開催（ほっとまんまカフェは8月、1月以外は開催、ほっとまんま相談コーナーは5月、8月、1月以外は開催）。

b ピアサポーターによる出張相談をにじの学園で9月13日（月）～16日（木）

の4日間を予定していたが、緊急事態宣言発令により中止。

(オ) サポートブックの普及・啓発

サポートシートについて、4月の小中学校の特別支援コーディネーター担当者会、6月の園長会で活用について周知。

にじの学園にてサポートブック説明会を1月11日(火)、12日(水)、17日(月)に開催。

(3) 令和4年度検討事項

ア 課題

- (ア) 医療的ケア児者の他、課題別に継続した検討が必要
- (イ) 保護者や各支援機関との連携、情報共有の充実
- (ウ) サポートブック普及のため継続的な啓発活動が必要

イ 目標

- (ア) ライフステージをつなぐ一貫した支援、連携の充実
- (イ) 医療的ケア児者等課題別の検討会を実施
- (ウ) 保護者支援として、ほっとまんまによるピアサポートの実施や茶話会を開催
- (エ) サポートブック普及啓発活動の継続

ウ 取組内容

- (ア) 引き続きライフステージをつなぐ一貫した支援、連携の確立のため、家庭、教育、福祉等の関係機関の更なる連携を促進する。

情報共有のため、年度当初にこども部会に参加する支援機関等の全員を含めた会議を開催し、関係者の顔合わせと前年度の検討内容の報告、当年度の予定などを確認していく。

- (イ) 医療的ケア児者検討会を開催し、外出の課題について検討。また児童通所支援事業所検討会を開催し、事業所間での情報共有や課題を検討する。
- (ウ) 保護者支援の更なる充実のため、ほっとまんまによるピアサポートの実施や茶話会の開催、サポートブック・サポートシートの普及啓発を実施。
- (エ) にじの学園と連携し、就園・就学前児童の保護者にぶちサポートブック、サポートシート説明会を開催。小中学校の特別支援コーディネーター担当者会や園長会などでサポートシート等の周知を図る。

4 障害者災害時支援部会

(1) 構成メンバー

民生委員児童委員、障害当事者団体、特別支援学校、福祉避難所指定障害福祉サービス事業所及び市（高齢介護課及び防災課）

(2) 令和3年度目標及び結果

ア 目標

- (ア) 総合防災訓練に部会としての参加についての検討
- (イ) 新型コロナ禍での避難について、避難行動・避難生活の課題や問題点等について検討
- (ウ) 要配慮者の避難所への避難や地域住民への理解促進等について検討
- (エ) 福祉避難所等において必要となる物品等について検討

イ 結果

令和3年度碧南市総合防災訓練は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、部会としては参加できなかった。

2月8日(火)に部会を開催し、碧南市の防災訓練や地区での避難訓練等の現状、個別避難計画について共有。障害当事者が地域と関わる中での疑問点や課題等について意見交換。

(3) 令和4年度検討事項

ア 課題

- (ア) 要配慮者について、地域住民への理解促進。
- (イ) 身体・知的・精神・発達に障害がある方の新型コロナ禍での避難行動・避難生活についての検討。

イ 目標

- (ア) 要配慮者について、地域住民への理解促進。
- (イ) 新型コロナ禍での避難について、避難行動・避難生活の課題や問題点等について検討。

ウ 取組内容

- (ア) 地域住民に要配慮者への理解を深めるための意見交換を実施。地域の避難訓練、総合防災訓練への参加を検討。
- (イ) 避難行動・避難生活等被災時に想定される障害特性による問題について確認及び検討。

5 地域生活支援部会

(1) 構成メンバー

地域活動支援センター、精神科病院、障害者就業・生活支援センター、保健所、障害福祉サービス事業所及び相談支援事業所

(2) 令和3年度目標及び結果

ア 目標

(ア) 障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築するため、地域生活支援部会にて検討を進める。

(イ) 個別ケースに応じた精神障害者の地域移行支援、地域定着支援の実施。

(ウ) あおみ J センターと連携し、家族懇談会をへきなん福祉センターあいくるにて開催。

イ 結果

(ア) 2 月 1 7 日（木）に部会を開催。今年度の病院と地域の事業所との連携について、現状を確認。個別ケース 2 事例の事例検討を通し、地域課題の共有と検討を実施。

(イ) 個別ケースに応じた地域移行支援、地域定着支援の実施。

(ウ) あおみ J センターと連携し、家族懇談会を奇数月の第 3 木曜日にへきなん福祉センターあいくるにて開催。

(エ) ころころ運営委員会の開催

a 精神に障害のある方等の居場所「ころころ」を毎週木曜日 1 0 時～1 5 時に開所。

b 偶数月最終木曜日に運営委員会を開催し、プログラムを検討。

c 福祉課窓口で自立支援医療の更新手続きの際に、案内チラシを配布。ホームページに掲載、近隣精神科病院・クリニックにチラシ・ポスターを送付。

d ボランティアに対する研修、意見交換会を開催

(3) 令和 4 年度検討事項

ア 課題

(ア) 地域移行支援、地域定着支援体制の充実が必要。

(イ) 親亡き後の生活や地域移行支援の受け皿となるグループホーム等の社会資源不足

(ウ) 個別ケースに応じた精神障害者の地域移行支援、地域定着支援の実施

イ 目標

(ア) 障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築するため、地域生活支援部会にて検討を進める

(イ) 個別ケースに応じた精神障害者の地域移行支援、地域定着支援の実施

(ウ) あおみ J センターと連携し、家族懇談会をへきなん福祉センターあいくるにて開催

ウ 取組内容

(ア) 医療機関と連携を図り、入院患者の現状を確認

- (イ) 精神障害者の地域移行、地域定着の個別支援の推進
- (ウ) 地域課題を検討し、地域での支援体制の充実を図る
- (エ) あおみ J センターと連携した家族懇談会の充実
- (オ) ころころ運営委員会の開催
 - a 「ころころ」の運営、居場所、プログラム内容について協議
 - b ボランティアの人数と質の確保、研修の実施

令和3年度 精神障害者居場所事業「ころころ」実績

回次	日付	プログラム内容	当事者	付添	ボランティア	職員	合計
1	4月1日	ニューススポーツを楽しもう	14人	3人	3人	1人	21人
2	4月8日	折り紙で季節を感じよう	11人	2人	3人	2人	18人
3	4月15日	ころころトーク	11人	0人	3人	1人	15人
4	4月22日	映画を観よう	10人	0人	3人	2人	15人
5	5月6日	明石公園までブラさんぽ	7人	2人	3人	1人	13人
6	5月13日	バスでお出かけ(へきなん探検)	8人	1人	2人	1人	12人
7	5月20日	ヤクルトさんの食育講座	8人	0人	3人	2人	13人
8	5月27日	ニューススポーツを楽しもう	8人	1人	3人	3人	15人
9	6月3日	折り紙で季節を感じよう	8人	1人	3人	1人	13人
10	6月10日	ニューススポーツを楽しもう	7人	1人	4人	1人	13人
11	6月17日	ころころトーク	10人	1人	3人	1人	15人
12	6月24日	映画を観よう	10人	1人	3人	1人	15人
13	7月1日	ニューススポーツを楽しもう	9人	0人	2人	3人	14人
14	7月8日	折り紙で季節を感じよう	11人	2人	3人	1人	17人
15	7月15日	映画を観よう	8人	2人	3人	1人	14人
16	7月29日	ころころトーク	12人	1人	2人	1人	16人
17	8月5日	折り紙で季節を感じよう	9人	3人	3人	1人	16人
18	8月12日	映画を観よう	7人	1人	2人	3人	13人
19	8月19日	ポッチャを楽しもう	9人	4人	2人	1人	16人
20	8月26日	ニューススポーツを楽しもう	11人	2人	2人	3人	18人
21	9月2日	折り紙で季節を感じよう	9人	1人	3人	2人	15人
22	9月9日	ころころトーク	9人	1人	3人	1人	14人
23	9月16日	ニューススポーツを楽しもう	8人	3人	1人	2人	14人
24	9月30日	プログラム中止	11人	2人	2人	1人	16人
25	10月7日	折り紙で季節を感じよう	10人	2人	3人	2人	17人
26	10月14日	明石公園までウォーキング	10人	2人	2人	3人	17人
27	10月21日	映画を観よう	10人	2人	2人	3人	17人
28	10月28日	ニューススポーツを楽しもう	12人	3人	3人	1人	19人
29	11月4日	折り紙で季節を感じよう	10人	0人	3人	1人	14人
30	11月11日	ころころトーク	8人	2人	3人	1人	14人
31	11月18日	ポッチャを楽しもう	13人	1人	2人	1人	17人
32	11月25日	映画を観よう	5人	2人	3人	1人	11人
33	12月2日	折り紙で季節を感じよう	10人	1人	3人	1人	15人
34	12月9日	みんなで障害や病気のことを学びませんか	9人	2人	2人	1人	14人
35	12月16日	ニューススポーツを楽しもう	8人	1人	2人	1人	12人
36	12月23日	クリスマス会	17人	1人	2人	2人	22人
37	1月6日	折り紙で季節を感じよう	8人	1人	3人	1人	13人
38	1月13日	防災食を調理しながら、防災について学ぼう	14人	1人	2人	2人	19人
39	1月20日	映画を観よう	9人	1人	2人	1人	13人
40	1月27日	ポッチャを楽しもう	9人	2人	2人	1人	14人
41	2月3日	折り紙で季節を感じよう	10人	1人	3人	1人	15人
42	2月10日	ニューススポーツを楽しもう	10人	2人	2人	3人	17人
43	2月17日	ころころトーク	10人	2人	2人	1人	15人
44	2月24日	映画を観よう	9人	1人	2人	3人	15人
45	3月3日	折り紙で季節を感じよう	12人	1人	3人	3人	19人
46	3月10日	ポッチャを楽しもう	10人	0人	3人	1人	14人
47	3月17日	ころころトーク	11人	1人	1人	1人	14人
48	3月24日	映画を観よう	8人	1人	2人	1人	12人
49	3月31日	明石公園へお花見さんぽ	12人	1人	2人	1人	16人
延べ人数			479人	69人	123人	75人	746人
1回あたり平均(今年度のべ49回)			9.8人	1.4人	2.5人	1.5人	15.2人

令和3年度 精神障害者居場所事業「ころころ」実績

・開催日

毎週木曜日 10:00～15:00

その他、心身障害者福祉センターの開館時間に多目的室を解放

・のべ実施回数

49回

(昨年度 49回)

・のべ参加者数

当事者 479人、付添69人、ボランティア123人、職員75人 合計746人)

(昨年度 当事者 486人、付添46人、ボランティア128人、職員73人 合計733人)

・1回あたり平均

当事者 9.8人、付添1.4人、ボランティア2.5人、職員1.5人 合計15.2人

(昨年度 当事者 9.9人、付添0.9人、ボランティア2.6人、職員1.5人 合計15.0人)